



## [Project Hayano:放射性ヨウ素拡散シミュレーションのマッシュアップ](#)

本コンテンツは、2012年の[東日本大震災ビッグデータワークショップ](#)における[Project Hayano](#)（リーダー：[早野龍五](#)、マッシュアップ&インターフェイスデザイン担当：[渡邊英徳](#)）で集められた、福島第一原子力発電所事故発生直後の放射性ヨウ素拡散シミュレーション結果と、その他のデータ同士の関係をわかりやすく伝えるために、デジタルアースを利用したマッシュアップとして[公開した](#)ものです。以下の記事も参照してください。

- [ハフィントン・ポスト記事その1](#)
- [ハフィントン・ポスト記事その2](#)

<http://speedi.mapping.jp/>

以下のデータが掲載されています。

■国立環境研究所(NIES)による大気中ヨウ素濃度シミュレーション

赤い棒グラフ。ガス状 / 粒子状131-I濃度の値(Bq/m<sup>3</sup>) \* 0.2 = 高さ(m) で表現。

■海洋研究開発機構(JAMSTEC)による大気中ヨウ素濃度シミュレーション

平面で色分け。対数表示。色は元データのまま。

■ゼンリンデータコムによる混雑情報

ゼンリンデータコムのアルゴリズムに基づく推計人口が500人(10000m<sup>2</sup>)を上回る地点について、3D棒グラフで表現しています。人数×10 = 高さ[m]となります。